

PDCPD 製 大口徑バタフライバルブ 700～1200mm

取扱説明書



このたびは、弊社製品をご採用いただきまして、ありがとうございます。
この取扱説明書は、弊社製品を安全にご使用いただくための
重要な事柄について記載していますので、製品を取り扱う前に必ずお読みください。
なお、お読みになられた後は、お使いになられる方がいつでも見ることが出来る場所に
必ず保管していただきますよう、よろしくお願いいたします。

旭有機材株式会社

-安全にご使用いただくために-

この取扱説明書は、弊社製品を取り扱われる方が当社製品、電気、機械、制御等の基本的な知識をお持ちであることを前提として書かれており、取扱い内容によっては専門用語を含んでいます。

この取扱説明書を熟読し、内容を十分に理解され、安全事項を順守して正しく使用してください。

この取扱説明書では、人的障害や物的損害の状況、及び規模をお知らせするために、特に重要とされる事象について「警告」「注意」「禁止」「強制」の内容をマークとともに区分して記載しています。

順守しなかった場合、思わぬ障害や損害が発生する可能性がありますので、必ず順守されますよう、よろしくお願いいたします。

<警告・注意表示>

 警告	製品の取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負うことが想定される内容」です。
 注意	製品の取り扱いを誤った場合、「傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定される内容」です。

<禁止・強制表示>

 禁止	製品の取扱いにおいて、「行ってはいけない内容」で禁止します。
 強制	製品の取扱いにおいて、「必ず行っていただく内容」で強制します。

目次

1. 弊社製品の保証内容について	4
適用対象.....	4
保証期間.....	4
保証範囲.....	4
免責事項.....	4
2. 安全上のご注意	5
開梱・運搬・保管.....	5
製品の取り扱い.....	5
3. 各部品の名称	7
4. 製品の仕様	8
型番表.....	8
最高許容圧力と温度の関係.....	9
5. 取付方法	10
6. サポート設置方法	15
水平配管.....	15
垂直配管.....	15
7. 操作方法	16
8. 通水、及びギヤボックスのストッパー調整方法	17
8-1. 通水.....	17
8-2. ギヤボックスのストッパー調整.....	17
9. 点検項目	18
9-1. 日常点検.....	18
9-2. 定期点検.....	19
10. 不具合の原因と処置方法	20
11. 残材・廃材の処理方法	21
お問合せ先	22

1. 弊社製品の保証内容について

契約書、仕様書等に特記事項のない場合、弊社が製造・販売するバルブ等の配管材料製品（以下、「対象製品」といいます。）の保証内容は以下のとおりとなります。

適用対象

この保証は対象製品を日本国内で使用される場合に限り適用されます。海外でご使用になられる場合には、別途、弊社にお問い合わせください。

保証期間

保証期間は、納入後1年間といたします。

保証範囲

上記保証期間中に弊社の責任による故障や不具合が生じた場合は、代替品との交換、または修理を無償で実施いたします。

ただし、保証期間内であっても、次に該当する場合は保証の対象外（有償でのご対応）といたします。

- ▶ 施工・据付・取扱い、及びメンテナンス等において、仕様書・取扱説明書等に記載された保管・使用条件や注意事項等が守られていない場合。
- ▶ お客さまの装置やソフトウェアの設計等、対象製品以外に起因した不具合の場合。
- ▶ 弊社以外による製品の改造・二次加工に起因した不具合の場合。
- ▶ 取扱説明書等に記載された定期点検や消耗部品の保守・交換が正常に実施されていれば回避できたと認められる不具合の場合。
- ▶ 部品をその製品の本来の使い方以外にご使用になられた場合。
- ▶ 弊社出荷時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障や不具合の場合。
- ▶ 天災・災害等の弊社の責任ではない外部要因による不具合の場合。

免責事項

- ▶ 弊社製品の故障に起因する二次災害（装置の損傷、機会損失、逸失利益等）、及びいかなる損害も補償の対象外とさせていただきます。
- ▶ 弊社は製品の品質・信頼性の向上に努めておりますが、その完全性を保証するものではありません。特に人の生命、身体、または財産を侵害するおそれのある設備等にご使用になられる場合には、通常発生し得る不具合を十分に考慮した適切な安全設計等の対策を施してください。このようなご使用については、事前に仕様書の書面による弊社の同意を得ていない場合は、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。
- ▶ 弊社製品のご使用に際しては、製品仕様や注意事項等の遵守をお願いいたします。お客様がこれらを怠ったことによりお客様に損害が発生した場合、弊社は一切の責任を負わないものとします。ただし、お客さまに生じた損害が、弊社製品の欠陥による場合はこの限りではありません。

2. 安全上のご注意

開梱・運搬・保管

 警告	
 強制	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊荷の下に入らないでください。

 注意	
 禁止	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 投げ出しや落下、打撃などによる衝撃を与えないでください。 ▶ ナイフや手かぎなどの鋭利な物体で、引っかきや突き刺しなどをしないでください。 ▶ コールタール、クレオソート（木材用防腐剤）、白あり駆除剤、殺虫剤、塗料などに接触させないでください。 ▶ バルブを運搬する場合、ハンドル掛けはしないでください。
 強制	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 配管直前まで梱包材に入れたまま、直射日光を避けて、屋内（室温）で保管してください。また、高温になる場所での保管も避けてください。 ▶ 開梱後、製品に異常がないか、仕様と合致しているかを確認してください。 ▶ 梱包材より製品を取り出したら、バルブ内面をきれいなウエスで清掃してください。

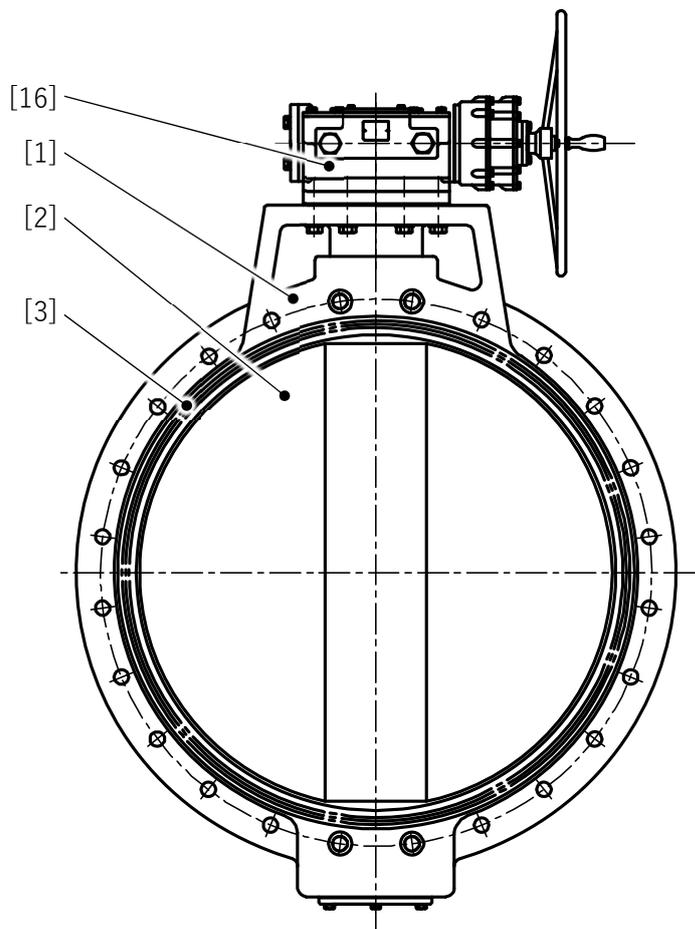
製品の取り扱い

 警告	
 禁止	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ バルブやギャボックスを分解及び改造をしないでください。
 強制	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 弊社樹脂製配管材料に陽圧の気体を使用される場合は、水圧と同値であっても圧縮性流体特有の反発力により、危険な状態が想定されますので、管を保護資材で被覆するなど、周辺への安全対策を必ず施してご使用願います。なお、ご不明な点がございましたら、別途、弊社にお問い合わせください。 ▶ 配管施工完了後、管路の漏れ試験を行う場合は、必ず水圧で確認してください。止むを得ず気体で試験を行う場合は、事前に弊社へご相談ください。 <p>ケガをするおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 保守点検が出来るスペースは、十分確保してください。


注意

 禁止	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ バルブに乗ったり、重量物を載せたりしないでください。 ▶ 火気や高温な物体に接近させないでください。 ▶ バルブに大きな振動を与えないでください。
 強制	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 流体の圧力と温度は、許容範囲内で使用してください。(最高許容圧力は水撃圧を含んだ圧力です) ▶ 製品の取り付け、操作、調整、及び点検は、事前に取扱説明書を読んで十分に理解した上で行ってください。 ▶ 高温の流体で使用される場合、バルブとフランジの軸芯のズレがシート破損の要因となる場合がありますので、施工の際は十分注意してください。 ▶ 接続フランジは、全面座のものを使用してください。やむを得ず全面座以外のフランジ(フランジアダプター/バックリングフランジなど)を使用する場合、バルブのサイズによってはフランジ角部がシートに食い込み、シートが破損するおそれがありますので、事前に弊社までお問合せください。 ▶ バルブを据え付ける場所の雰囲気にご注意ください。特に潮風、腐食性ガス、化学薬液、海水、蒸気などにさらされる場所での据え付けは避けてください。 ▶ 使用条件に適した材質のバルブを使用してください。(薬液の種類によっては部品が侵されるおそれがありますので、詳細については弊社へ事前にご相談ください) ▶ 結晶性物質を含んだ流体は、再結晶しない条件で使用してください。 ▶ 常時、水や粉じんなどが飛び散る場所、及び直射日光のあたる場所は避けるか、または全体を覆うカバーなどでバルブを保護してください。 ▶ 「9.点検項目」を参照して、定期的にメンテナンスを行ってください。特に長期保管や休転時、または使用中の温度変化や経時変化にご注意ください。 ▶ バルブ設置時にはバルブや配管に無理な力が加わらないように、適切なバルブサポートを施してください。 ▶ ロングステム式の場合、埋め戻しの土圧により芯ずれが発生し、操作できない恐れがありますので、偏った荷重がかからないように均一に締め固めながら埋め戻してください。 ▶ 必ず表示された製品仕様内で使用してください。

3. 各部品の名称



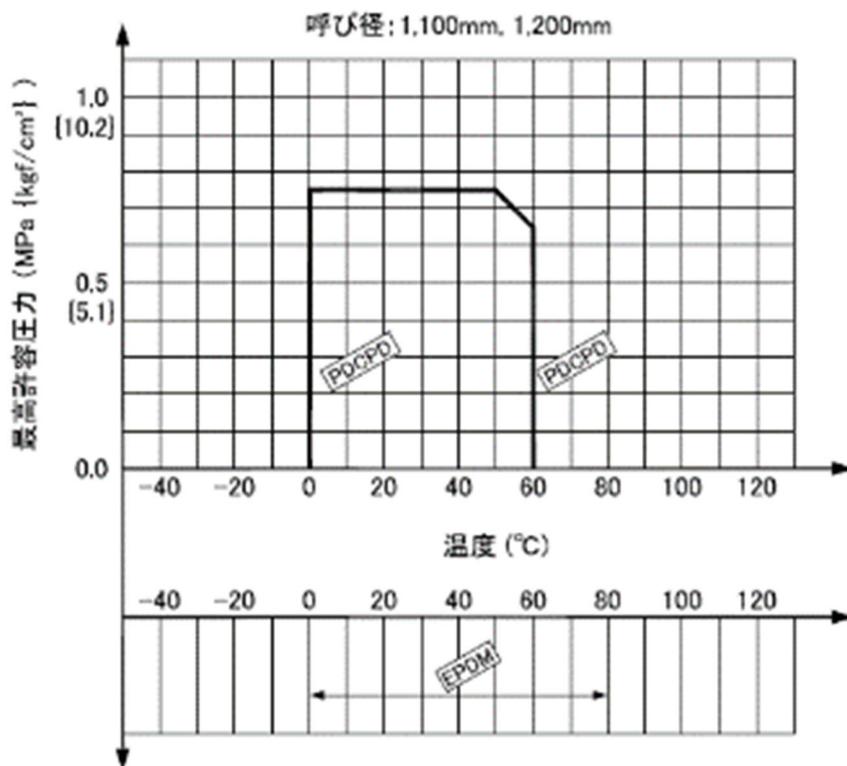
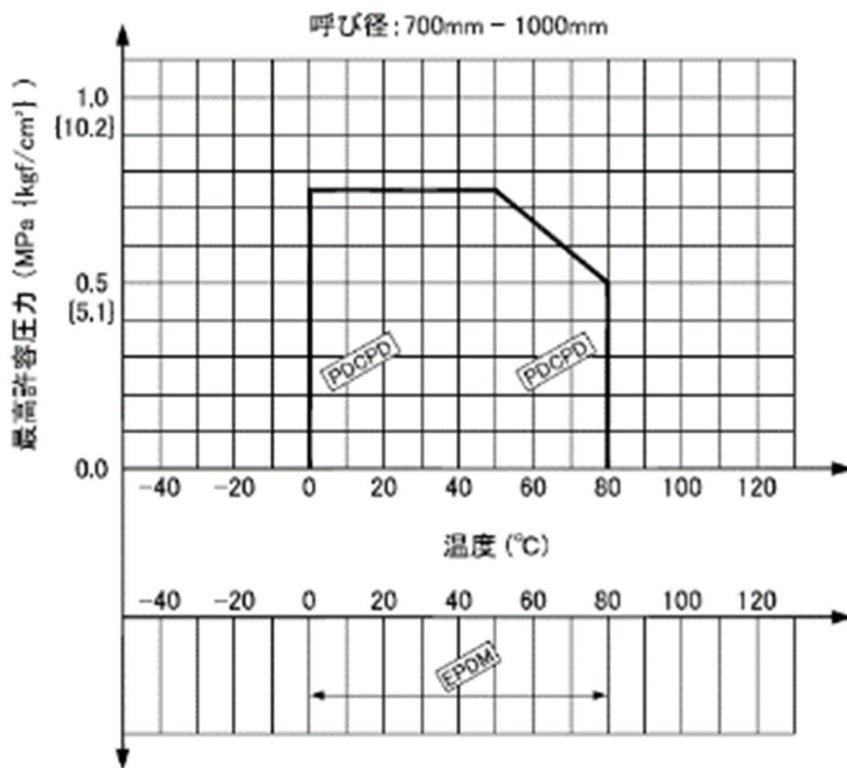
品番	名称
[1]	ボディ
[2]	ディスク
[3]	シート
[16]	ギヤボックス

4. 製品の仕様

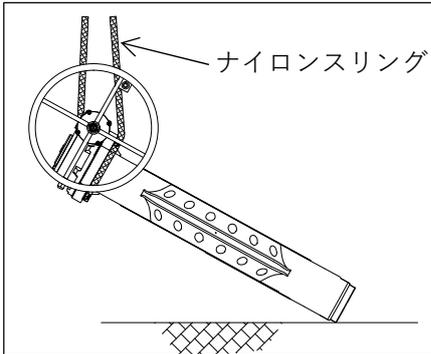
型番表

駆動	型式	操作方式	ボディ材質	シール材質	接続	規格	呼び径
V	PD	SG	D	E	W	*	***
V 手動弁	PD 大口径	SG サイドギヤ式	D PDCPD	E EPDM	W ウエハ	1 JIS 10K	700 700mm
						W 上水	800 800mm
						D DIN	900 900mm
						A ANSI	A00 1000mm
							A10 1100mm
							A20 1200mm

最高許容圧力と温度の関係



5. 取付方法

⚠ 警告	
🚫 禁止	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ギヤボックスに取付けてあるアイボルトはギヤボックス重量に対して設計されているので、これで全体を吊ることは避けてください。アイボルトはバルブを垂直に立てるために補助的に使用してください。
! 強制	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊荷の下に入らないでください。 ▶ バルブを吊り上げる時は、図のようにバルブの首部とギヤボックス部にナイロンスリングを掛けてください。 ▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。 ▶ 配管施工する際は、作業内容に応じた適切な保護具を着用してください。 <div style="text-align: right;">  <p>← ナイロンスリング</p> </div>

⚠ 注意	
🚫 禁止	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Uバンドなどで配管サポートを取られる際は、締め過ぎないでください。 ▶ 配管取付の際は、全閉状態で取り付けないでください。(ディスクがシートへ噛み込み、操作トルクが重くなり、開閉操作が出来なくなるおそれがあります) ▶ 図 5-1 の『不可』の状態では運搬や取付工事を行いますと、ディスクのシール面に傷を付くので、絶対に避けてください。 ▶ 配管用ボルトナットを、規定トルク以上で締め付けないでください。

注意

強制

バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。

- ▶ 取付けの際は、配管及びバルブなどに引張り、圧縮、曲げ、衝撃などの無理な応力が加わらないように設置してください。
- ▶ 接続フランジは、全面座のものを使用してください。やむを得ず全面座以外のフランジ（フランジアダプター/バックリングフランジ など）を使用する場合、バルブのサイズによってはフランジ角部がシートに食い込み、シートが破損するおそれがありますので、事前に弊社までお問合せください。
- ▶ 相互のフランジ規格に違いがないように確認してください。
- ▶ 配管用ボルトナットは、通し穴部から締め付けて固定してください。（本体埋込金具部から先に締め付けると、破損するおそれがあります）
- ▶ 出荷時の製品は、**図 5-1** の『良』の状態になっています。配管取付の際にバルブを開閉するときは、操作後は必ず元の状態（図 5-1 の『良』）にディスクを戻してから取り付けてください。
- ▶ 接続部（フランジ・パイプ）の内径が小さな場合には、バルブディスクと接続部の内面の接触を避けるために、接続部内側の面取りを行ってください。（**図 5-2** 参照）
- ▶ 接続部の内径は、**表 5-1** の数値以上にしてください。

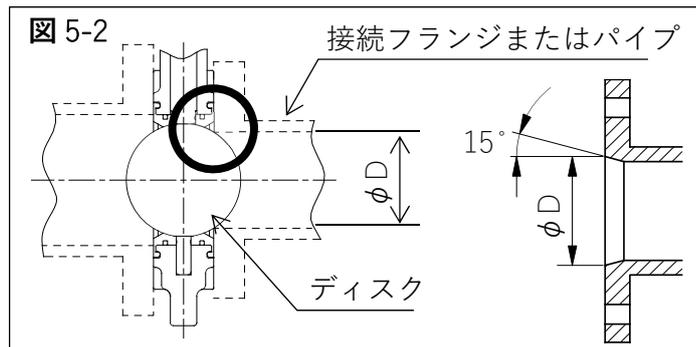
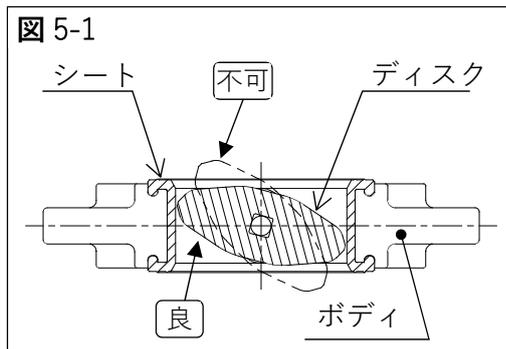


表 5-1 最小内径寸法

呼び径 (mm)	700	800	900	1000	1100	1200
内径 D (mm)	649	743	848	936	1054	1136

準備するもの	▶ トルクレンチ	▶ スパナ	▶ 通しボルト	▶ ねじ込みボルト
	▶ ナット、ワッシャ	▶ 短管	▶ ウエス	

通しボルト、ねじ込みボルトの寸法

▶ 接続規格やフランジ材質によって使用するボルトの長さが異なりますので、以下の式によりボルト長さを求めてください。

▼JIS10K

呼び径		ボルト A			ボルト B		数量		
mm	inch	D	L (mm)	S (mm)	D1	L1 (mm)	ボルト A	ボルト B	ナット・ワッシャ
700	28"	M30	370	70	M30	130	20	8	48
800	32"		410	80		140			56
900	36"		420			150			
1000	40"	M36	500	90	M36	180	24	8	
1100	44"		520	100		190			
1200	48"		570			200			

注記 1. 上記数値は JIS B 2220 「鋼製管フランジ」呼び圧力 10K を使用した場合のボルト寸法です。

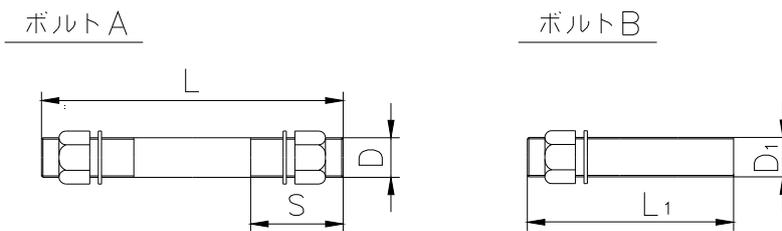
注記 2. ナット・ワッシャの数量はボルト A の場合は 2 組(ボルト 1 本/ナット 2 ケ、ワッシャ 2 ケ)、ボルト B の場合は 1 組(ボルト 1 本/ナット 1 ケ、ワッシャ 1 ケ)の数量です。

▼上水

呼び径		ボルト A			ボルト B		数量				
mm	inch	D	L (mm)	S (mm)	D1	L1 (mm)	ボルト A	ボルト B	ナット・ワッシャ		
700	28"	M30	350	60	-	-	16	8	32		
800	32"		380		70	M30			130	20	8
900	36"		390	160					24		
1000	40"	450	70		140						
1100	44"	510	70	160	24	56					
1200	48"										

注記 1. 上記数値は、JISG5527 「ダクタイル鋳鉄異形管」呼び圧力 7.5K を使用した場合のボルト寸法です。

注記 2. ナット・ワッシャの数量はボルト A の場合、2 組(ボルト 1 本/ナット 2 ケ、ワッシャ 2 ケ)、ボルト B の場合は 1 組(ボルト 1 本、/ナット 1 ケ、ワッシャ 1 ケ)の数量です。



[手順]

1) 短管をあらかじめセットします。

バルブを起こした時のバルブセンターと短管のセンターが大体同じになるように短管を適当な台でセットします。短管のフランジ面の異物等を布等できれいに拭き上げます。

2) バルブを起こします。

本体首部にナイロンスリングを巻き徐々に起こします。起こした後、シート面の異物等を布等できれいに拭き上げます。吊り上げは図のようにギヤボックス部にバンド掛けして吊り上げてください。ギヤボックスに取付けてあるアイボルトはギヤボックス重量(500kg)に対して設計されているので、これで全体を吊ることは避けてください。アイボルトはバルブを垂直に立てるために補助的に使用してください。

3) セットした配管の間にバルブを徐々に下ろして行きます。このとき、バルブシートが短管のフランジ面に当たり、傷つかないように注意してください。なお、バルブは必ず閉の状態に取り付けてください。

単位:mm

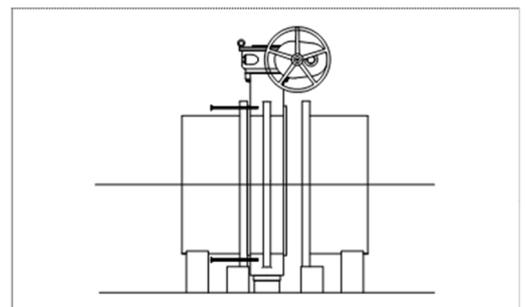
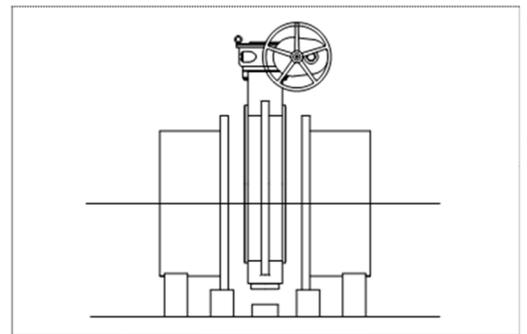
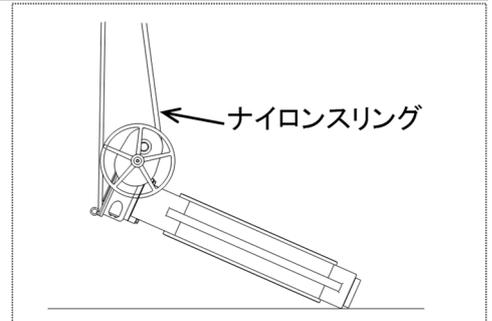
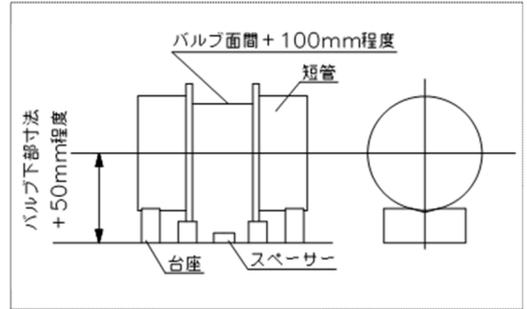
呼び径	面間寸法
700	206
800	240
900	240
1000	300
1100	300
1200	350

4) 片側の短管とバルブを仮接続します。

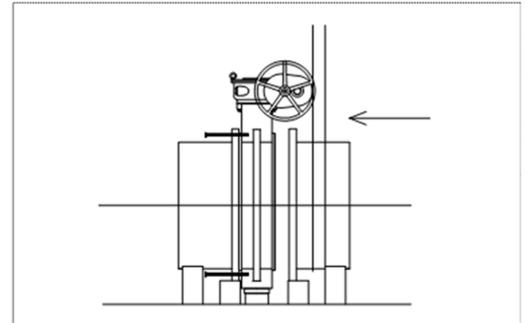
短管のボルト穴とバルブのボルト穴が大体合う位置で、埋込金具部に植込みボルトを4ヶ所セットし、ナットで軽く止めます。

5) もう一方の短管をバルブにセットします。

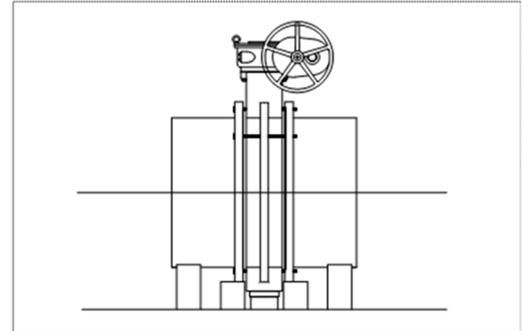
短管をナイロンスリングで吊り、4と同じ要領で埋込金具部に植込みボルトをセットし、ナットで軽く止めます。



- 6) 通し穴にボルトを通し配管します。
 全部のボルトが無理なく通るように配管を少しずつ動かし、穴を合わせてナットでセットします。
 (バルブとフランジのボルト・ナットは通し穴部から締め付け固定してください。本体埋込金具部から先に締めることは避けてください)



- 7) ナットを締め込みます。
 対角線状にナットを締めていきます。埋込金具部は、他の通しボルトの締め付けが終了した後、締め付けます。
- 8) 両側の短管のフランジ寄りをナイロンスリングにて吊り上げ、所定の場所に設置します。この時、上部ギヤボックスのアイボルトにワイヤーをかけ、バルブ全体が回らないようにします。



6. サポート設置方法

⚠ 注意



禁止

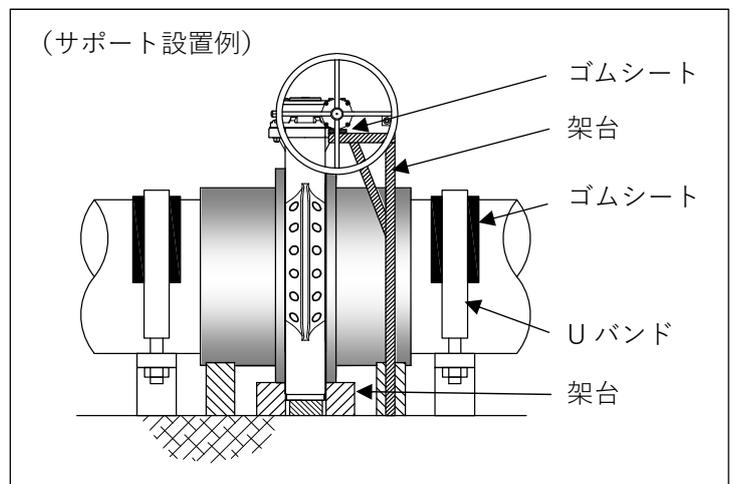
バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。

▶ ポンプ周りの配管でバルブに大きな振動を起こさせないでください。

準備するもの ▶ スパナ ▶ Uバンド（ボルト付） ▶ ゴムシート

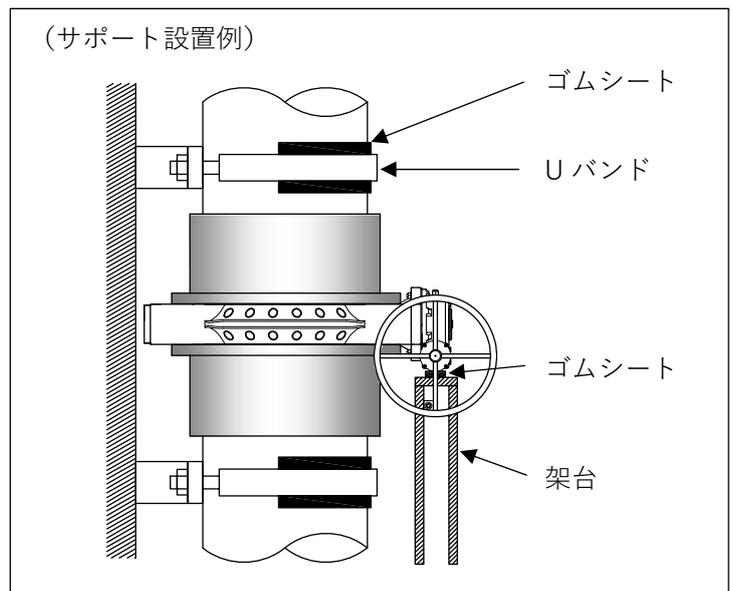
水平配管

- ▶ バルブの下に架台を設置します。
- ▶ ギヤボックスの下にゴムシートを敷き、架台で支えます。
- ▶ パイプにゴムシートを敷き、Uバンドなどで固定します。



垂直配管

- ▶ ギヤボックスの下にゴムシートを敷き、架台で支えます。
- ▶ パイプにゴムシートを敷き、Uバンドなどで固定します。



7. 操作方法

 注意	
 禁止	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ 手動ハンドルを過度の力で必要以上に回さないでください。</p>
 強制	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ 手動操作は、必ず手で行ってください。</p> <p>バルブが正常に作動しないおそれがあります。</p> <p>▶ ディスクとシートが濡れている状態で作動させてください。</p>

[手順]

1) ギヤボックス最上部の開度指示の動きを確認しながら、静かにハンドルを回転させて開閉します。

【左開仕様の場合】

- ▶ 時計回り ; バルブ閉
- ▶ 反時計回り ; バルブ開

【右開仕様の場合】

- ▶ 時計回り ; バルブ開
- ▶ 反時計回り ; バルブ閉

表 7-1 ハンドル回転数

呼び径 (mm)	700	800	900	1000	1100	1200
ハンドル回転数	57	57	57	137	137	137

8. 通水、及びギヤボックスのストッパー調整方法

⚠️ 注意

❗ 強制

バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。

- ▶ ロックナットについている樹脂製ワッシャを失くさないでください。
- ▶ 調整後は袋ナットをゆるまないようにしっかり固定してください。(ギヤボックス内に雨水などが侵入するおそれがあります。)

8-1. 通水

[手順]

- 1) 通水をする前に、管内に弁座を損傷させるような異物がないことを確認し、バルブを全開にしてから通水してください。

8-2. ギヤボックスのストッパー調整

[手順]

- ※ 弁体の締込み度合いは調整済みですが、万一使用中に漏水を生じた場合は、駆動部のストッパーボルトの作動位置を調整してください。

9. 点検項目

 **注意**

 強制	<p>バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 正常な状態を保ち、末永くお使いいただくため、3 か月～6 か月ごとを目安にメンテナンスを行ってください。特に長期保管や休転時、または使用中の温度変化や経時変化に注意してください。 ▶ 使用開始後にバルブを配管から取り外すときは、配管内の流体を完全に抜いてから作業を行ってください。 ▶ 不具合現象が確認されたときは『10. 不具合の原因と処置方法』を参照して処置してください。
---	--

9-1. 日常点検

点検項目と点検方法	判断の目安	点検箇所	処置方法
外部漏れ (目視)	漏れが無いこと	・配管フランジ接続部	・配管ボルトの増し締め
		・バルブのトップフランジ部 (バルブボディとギヤボックスの接続部) ・バルブのボトムフランジ部	・バルブの交換 (最寄りの販売店、または弊社営業所までご連絡ください)
内部漏れ (目視/計測)	漏れが無いこと	・バルブの二次側からの漏れ	・ギヤボックスのストッパー位置調整
		・流量計、圧力計などの測定機器	・シール面の点検及び清掃 ・バルブの交換 (最寄りの販売店、または弊社営業所までご連絡ください)
異音 (聴音)	異音の無いこと	・バルブ及びギヤボックス ・バルブ周辺の配管及び配管ボルト	・流量及び圧力の確認または調整 ・固定ボルト及び配管ボルトの増し締め

9-2. 定期点検

・点検周期の目安：3 か月

点検項目と点検方法	判断の目安	点検箇所	処置方法
振動 (触診)	他所との差が無いこと	<ul style="list-style-type: none"> ・バルブ ・バルブ周辺の配管 	<ul style="list-style-type: none"> ・振動源の除去 ・流量及び圧力の確認または調整 ・固定ボルト及び配管ボルトの増し締め

・点検周期の目安：6 か月

点検項目と点検方法	判断の目安	点検箇所	処置方法
振動 (触診)	他所との差が無いこと	<ul style="list-style-type: none"> ・バルブ ・バルブ周辺の配管 	<ul style="list-style-type: none"> ・振動源の除去 ・流量及び圧力の確認または調整 ・固定ボルト及び配管ボルトの増し締め
手動ハンドルの操作性 (感触)	スムーズに回ること	<ul style="list-style-type: none"> ・丸ハンドル 	<ul style="list-style-type: none"> ・バルブの交換 (最寄りの販売店、または弊社営業所までご連絡ください)
固定ボルトのゆるみ (目視/触診)	緩みの無いこと	<ul style="list-style-type: none"> ・配管ボルト ・ギヤボックス固定ボルト 	<ul style="list-style-type: none"> ・固定ボルト及び配管ボルトの増し締め
製品損傷 (目視/触診)	キズ、割れ、変形の無いこと	<ul style="list-style-type: none"> ・バルブの表面 	<ul style="list-style-type: none"> ・バルブの交換 (最寄りの販売店、または弊社営業所までご連絡ください)

10. 不具合の原因と処置方法



注意



強制

ケガをするおそれがあります。

▶ 不具合現象が確認されたときは、速やかに使用を中止し、処置を行ってください。

▶ バルブを配管から取り外すときは、配管内の流体を完全に抜いてから作業を行ってください。

不具合現象	予想される原因	処置方法
ハンドルが回らない (回せない)	すでに全開（または全閉）になっている	ハンドルを逆方向に回転させる (参照：7. 操作方法)
	バルブに異物が噛み込んでいる	バルブを配管から取り外し、異物を取り除く (参照：5. 取付方法)
	バルブに配管応力が加わっている	配管応力を取り除く
	流体の影響（温度・成分・圧力など）により、バルブのトルクが増加している	使用条件を確認する (参照：2. 安全上のご注意 [製品の取り扱い])
シートからの内部漏れ	流体圧力が高い	[4. 製品の仕様 [最高許容圧力と温度の関係]] を確認、最高許容圧力以下で使用
	異物の噛み込みによるディスクまたはシートの損傷	バルブを配管から取り外し、異物の有無やディスクとシートの損傷有無を確認。ディスクまたはシートが損傷しているときはバルブを交換して再取り付け。 (最寄りの販売店、または弊社営業所までご連絡ください)
	配管ボルトの締め込み過ぎ	流体の圧力を下げて配管ボルトをゆるめ、対角線上に締め直す (参照：5. 取付方法)
	ディスクまたはシートの摩耗または損傷	バルブを配管から取り外し、ディスクとシートの摩耗や損傷有無を確認。ディスクまたはシートが摩耗または損傷しているときはバルブを交換して再取り付け。 (最寄りの販売店、または弊社営業所までご連絡ください)
	配管ボルトのゆるみ、または片締め	流体の圧力を下げて配管ボルトをゆるめ、対角線上に締め直す (参照：5. 取付方法)
	長期間使用と高頻度開閉によるシートの摩耗または損傷	バルブを配管から取り外し、シートの摩耗や損傷有無を確認。シートが摩耗または損傷しているときはバルブを交換して再取り付け。 (最寄りの販売店、または弊社営業所までご連絡ください)

不具合の原因と処置方法（続き）

不具合現象	予想される原因	対策・処置
フランジ接続部からの漏れ	配管ボルトのゆるみ、または片締め	流体の圧力を下げて配管ボルトをゆるめ、対角線上に締め直す (参照：5. 取付方法)
	シートのめくれ、または損傷	バルブを配管から取り外し、シートのめくれやキズの有無を確認。異常があったときはバルブを交換して再度取り付け。 (最寄りの販売店、または弊社営業所までご連絡ください)
	フランジとシート間の異物噛み込み	バルブを配管から取り外し、異物の有無を確認。異物があったときは取り除いて清掃し、バルブを再度取り付け。シートが破損しているときはバルブを交換して再取り付け。 (最寄りの販売店、または弊社営業所までご連絡ください)
	フランジとバルブの軸芯ズレ	配管ボルトをゆるめ、軸芯を合わせて再取り付け (参照：5. 取付方法)
バルブのトップフランジまたはバルブ下部からの漏れ	ステムシール部の摩耗、または損傷	バルブを配管から取り外し、バルブを交換して再取り付け (最寄りの販売店、または弊社営業所までご連絡ください)

11. 残材・廃材の処理方法

警告	
強制	<p>燃やすと有毒ガスが発生します。</p> <p>▶ 製品または部品を廃棄される場合は、各自治体の指針にしたがい、廃棄専門業者に処理をお願いしてください。</p>

お問合せ先

この製品に関するお問い合わせは、最寄りの販売店、弊社営業所、または弊社 web サイトの「お問い合わせ」までご連絡ください。

[取扱説明書]

PDCPD 製大口径
バタフライバルブ
700～1200mm



本取扱説明書に記載されている製品名、ロゴ、その他の商標は、すべて旭有機材株式会社の登録商標です。これらの商標は、旭有機材株式会社の知的財産であり、許可なく使用することはできません。本書のいかなる内容も、明示または黙示による商標の使用許諾を与えるものではありません。登録商標に関する詳細については、旭有機材株式会社にお問い合わせください。

<https://www.asahi-yukizai.co.jp/>

本書内容につきましては、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

2025.05